

革新の工芸—“伝統と前衛”、そして現代—

Craft Arts: Innovation of “Tradition and Avant-Garde,” and the Present Day

2016年9月17日(土)～12月4日(日)

戦後から現代まで約120点の作品を通じ、革新を続ける日本の工芸の様相を探る。

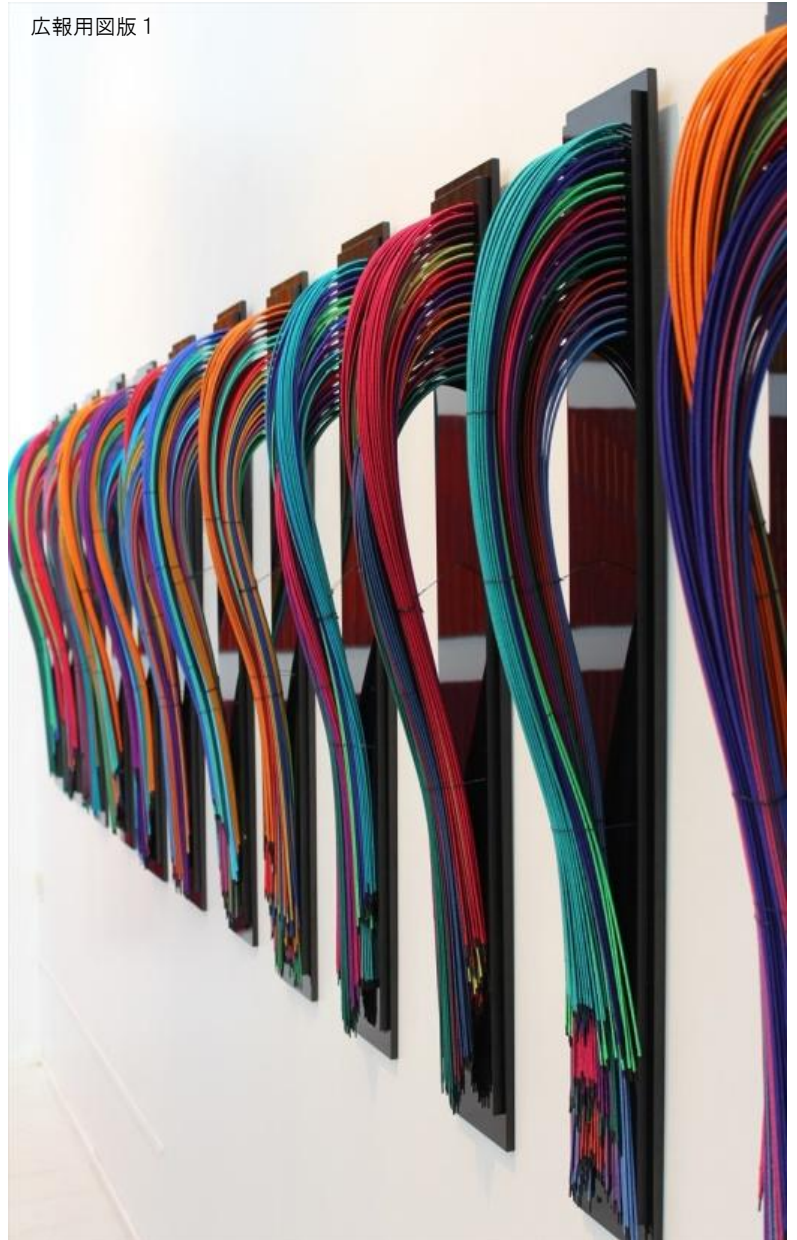
富本憲吉や松田権六ら「先駆者」が築いた、日本工芸の戦後の基盤である“伝統”は、昭和30年代頃、それを受け継いだ岡部嶺男らによる“伝統の工芸”と、オブジェ焼の八木一夫らの“前衛的な工芸”へと展開され、新世代の作家によって「革新」ともいべきあらたな局面が生まれました。

本展では、その先人たちの芸術を新たな感覚で吸収した「現代」の工芸に焦点をあて、十四代今泉今右衛門や室瀬和美、草間喆雄や八木明ら、国内外で活躍する現代作家の多様な作品を紹介します。古典的な様式美や、伝承のわざによって確立された美しさの中に、新たな素材や、独自の技法を取り入れたその作品を通じて、日本の文化を豊かに彩る現代の工芸の様相を探ります。

会場では、メインとなる「伝統の現代」と「現代の造形」の2章を、前述の「先駆者」「革新」の2章と対照しながら、陶磁、漆芸、金工を中心に、83名の作家の作品約120点を紹介いたします。

◆記者内見会を行います。
9月16日(金) 13:30～15:00
(詳細、お申込みは別紙)

広報用図版 1



草間喆雄 《The Flow》 2013年 個人蔵

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/諸山 広報担当/高橋

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通)

※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。

E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

http://www.momat.go.jp

■伝統の現代

江戸時代から伝わる色鍋島の「墨はじき」（白抜きの技法）に「プラチナ彩」を融合させた独自の手法や上絵の厚みに意識を向けて現代感覚に富む色絵磁器を手掛ける十四代今泉今右衛門や、華麗な伝統の蒔絵に、金粉の立体的効果や鉛を応用した、表情豊かな制作に独自の創作性を発揮している室瀬和美など、重要無形文化財保持者（※）の近作を交え、時代に即した“伝統”を作り出す作家の作品を紹介します。

※この図版の貸出は8/20～です。



（←左）十四代今泉今右衛門
《色絵雪花墨色墨はじき菊文花瓶》
2014年 個人蔵

（↓下）室瀬和美
《蒔絵螺鈿菱華文卓》2013年 個人蔵



※重要無形文化財保持者
（人間国宝）

芸術、歴史的に見て価値の高い日本の伝統的な芸能や工芸技術を、国の文化財として保存活用するための制度。本展では、2014年、陶磁の分野では史上最年少でその認定を受けた十四代今泉今右衛門のほか、2015年女性の金工家として初めて認定を受けた大角幸枝らの作品も紹介する。

■現代の造形

レーヨンなどの化学繊維を用いた、草間詰雄のファイバーワーク（表紙）や、柔らかな触感を思わせる曲線に漆特有のつややかさを合わせた笹井史恵の乾漆の作品など、伝統的な様式美から造形表現に展開された作品を紹介します。さらに、幾層もの輪花が可変する八木明の吊り香炉など、工芸の素材や技法を用いて「うつわ」の形態をとりつつも、典型的な「用の美」としてではなく、あくまで個人の創作表現を訴えた作品などを通じて、現代の造形としての工芸あり方を探ります。

アーティストトーク

※詳細はP.4へ

八木明（1955-）

陶芸家。京都府生まれ。陶芸家の八木一舂（いっそう）を祖父、前衛陶芸を牽引した一夫を父、ファイバーワーク作家の高木敏子を母に持つ。卓越したロクロの技法と表現や青白磁、天目の伝統的な釉薬を作品に取り入れ、現代的な感覚で形や構造、素材といった磁器の可能性を提示する造形を手掛ける。



八木明《青白磁可変輪花香炉》
2016年 個人蔵



笹井史恵《かさね8》
2015年 個人蔵

■伝統と前衛の革新

織部や志野などの伝統技法を踏まえて独創的な創造性を確立した岡部嶺男のように、昭和30年代頃から台頭した“新世代”の作家の創意と現代的な感覚によって、新たな“伝統”の表現が見出されます。一方で、抽象表現主義やポップアートをはじめ、同時代に流入した欧米美術の影響を受けて、工芸の分野でも伝統的な技法を用いながら、実用の形態から離れたオブジェとして「もの」の存在を訴える作品が多く生まれました。アメリカに留学して現代美術の流れを体現した中村錦平や柳原睦夫のほか、伝統的な「蠟型鑄造」で、アルミやステンレスによる風土的な作品を発表した宮田宏平（三代宮田藍堂）など、前衛と呼ばれる作家が台頭し、工芸は伝統と前衛が対峙しながら相互に革新の時代を迎えました。



広報用図版 6
 岡部嶺男《総織部大鉢》1962年
 京都国立近代美術館蔵



広報用図版 7
 中村錦平
 《扁壺》1980年 個人蔵



広報用図版 8
 宮田宏平
 《蠟型ステンレス鑄造千手観音堂》
 1970年 京都国立近代美術館蔵

アーティストトーク

※詳細はP.4へ

中村錦平（1935—）

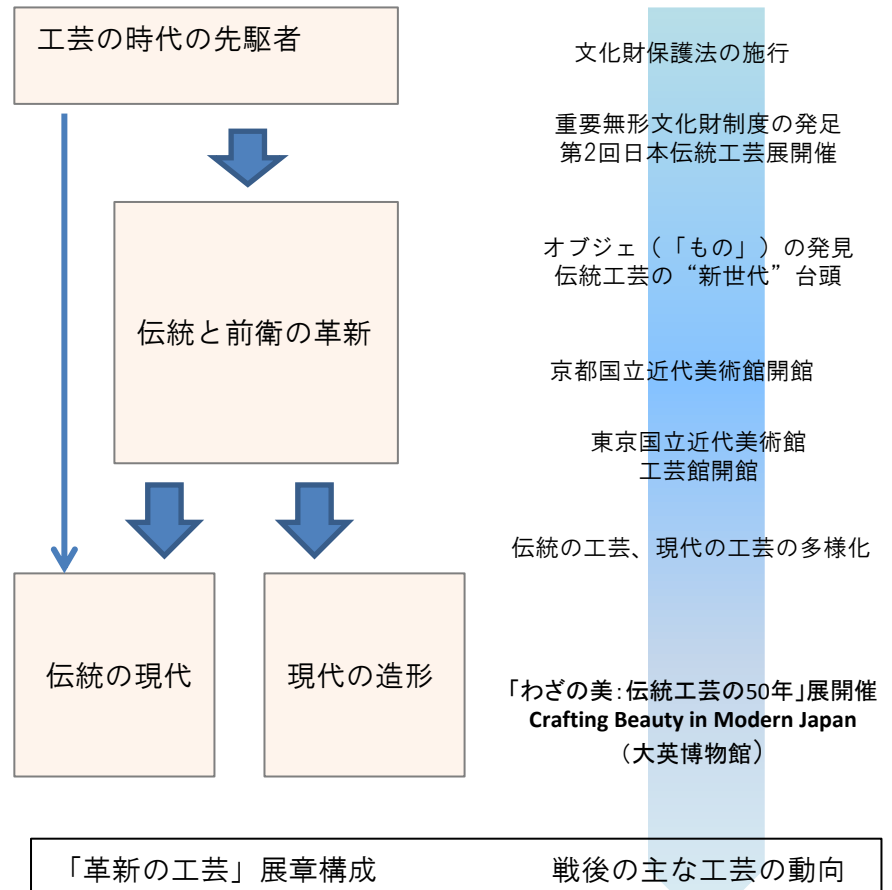
陶芸家。石川県生まれ。日本料理と北大路魯山人の器を研究した後、作陶活動に入る。1969年ロックフェラー三世財団の招聘で欧米に滞在。日本の伝統の様式や美意識の装飾を批判的に分析しつつ、メッセージ性に満ちた作品を生み出す。

■工芸の時代の先駆者



広報用図版 9
 富本憲吉
 《色絵金銀彩四弁花文飾壺》
 1960年 東京国立近代美術館蔵

戦後、従来の色絵から派生した、「金銀彩」と呼ばれる技法を極めた富本憲吉の晩年の作品をはじめ、松田権六、北大路魯山人など、今日まで受け継がれる“伝統”と戦後の日本工芸の基盤を築き上げた先達の名品を紹介します。



開催概要

展覧会名	(日本語) 革新の工芸—“伝統と前衛”、そして現代— (英語) Craft Arts: Innovation of “Tradition and Avant-Garde,” and the Present Day
会期	2016年9月17日(土)～12月4日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(9月19日、10月10日は開館)、9月20日(火)、10月11日(火)
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館工芸館
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
観覧料	一般550円(350円) 大学生350円(150円) 高校生以下及び18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。 ※11月3日(木・祝)文化の日は無料観覧日です。 *()内は20名以上の団体、およびキャンパスメンバーズ特典料金。いずれも消費税込。 *割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、障害者手帳をご提示ください。

アーティストトーク

10月9日(日) 中村錦平(陶芸家)
10月30日(日) 八木明(陶芸家)

イベント情報

内容や日程については変更の可能性
があります。最新情報はHPで
ご確認ください。

◆ギャラリートーク
11月6日(日) 諸山正則(当館主任研究員・本展企画者)

◆タッチ&トーク
会期中毎週水・土曜日
工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。〈さわってみようコーナー〉と会場トークの2部構成で、展覧会の見どころを紹介します。

※いずれも、14:00～15:00。申込不要・参加無料(要当日観覧券)

掲載用お問い合わせ先 Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP <http://www.momat.go.jp>

工芸館

赤レンガが目印の工芸館の建物は1910(明治43年)に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、1972年に重要文化財に指定されました。秋から冬にかけては、北の丸公園など周辺の紅葉とあわせて散策を楽しめます。



広報用図版 請求票

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行
発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	草間喆雄 《The Flow》 2013年 個人蔵
	2	十四代今泉今右衛門《色絵雪花墨色墨はじき菊文花瓶》2014年 個人蔵 ※8月20日頃より貸出開始
	3	室瀬和美《蒔絵螺鈿菱華文卓》 2013年 個人蔵
	4	八木明《青白磁可変輪花香炉》 2016年 個人蔵
	5	笹井史恵《かさね 8》 2015年 個人蔵
	6	岡部嶺男《総織部大鉢》 1962年 京都国立近代美術館蔵
	7	中村錦平《扁壺》 1980年 個人蔵
	8	宮田宏平《蠟型ステンレス鑄造千手観音堂》 1970年 京都国立近代美術館蔵
	9	富本憲吉《色絵金銀彩四弁花文飾壺》 1960年 東京国立近代美術館蔵
	10	チラシ画像 ※8月20日頃より貸出開始

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

ご担当者名：

E-mail：

貴社名：

出版物・放送番組・ウェブサイト名：

URL (http://www

)

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等：

電話番号：

(

)

Fax:

(

)

*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する (組 枚)

〒

チケット送付先：

【報道関係の方からの本資料に関するお問い合わせ先】
東京国立近代美術館工芸館 広報担当/高橋 TEL:03-3211-7781 (工芸課直通)
E-mail: koge-pr@momat.go.jp HP: http://www.momat.go.jp

※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。

平成 28 年 8 月吉日

報道関係者各位

東京国立近代美術館工芸館

「革新の工芸―“伝統と前衛”、そして現代―」展 記者発表会・記者内見会

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京国立近代美術館工芸館では 2016 年 9 月 17 日（土）～12 月 4 日（日）まで、「革新の工芸―“伝統と前衛”、そして現代―」展を開催いたします。戦後から現代まで、83 名の作家の作品約 120 点を通じて、伝統を基盤に革新を続ける、日本の工芸の様相を、現代の視点で紹介いたします。

つきましては、一般公開に先立ち記者の皆さまへの発表会、および内見会を行います。ご多用の折とは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

敬具

広報担当：高橋

Tel: 03-3211-7781 Fax: 03-3211-7783

E-mail: kogeï - pr@momat.go.jp

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 1-1

記者発表会・記者内見会 ※当日に限り、本展カタログを進呈いたします。

会場：東京国立近代美術館工芸館（東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より徒歩 8 分）

日時：2016 年 9 月 16 日（金）

13：30～受付

13：30～15：00 記者内見会（撮影可能）

14：15～14：50 記者発表会

お名前： _____ ご参加予定人数： _____

ご所属／媒体名： _____

TEL： _____ FAX： _____

E-mail： _____

撮影のご予定 あり・なし （いずれかに○を付けてください）

使用機材 _____

※記者発表会・記者内見会に参加ご希望の方は上記ご記入のうえ、工芸課広報担当まで、FAX（03-3211-7783）またはメール kogeï - pr@momat.go.jp でご連絡下さい。

（工芸館広報のアドレスが新しくなりました。）